

V プール遊び・水遊びの 安全管理

2024年版

V プール遊び・水遊びの安全管理

○以上児プール遊びの安全管理

1、プール遊びの条件

- (1) クラス担任と監視役職員の下でプール遊びを行う。(監視体制が整わない、また主任が不在の時はプール遊びを行わない)
※主任が長期不在の場合はその限りではない。
- (2) 必要事項をプール管理表に記入する。
- (3) 気温25℃以上、水温22℃以上が望ましい。
- (4) 気温35℃以上、水温30℃以上の場合は行わない。
- (5) WBGT(暑さ指数)31℃以上は中止とする。
- (6) 雷が近づいている時は行わない。予報やアラートを利用しながら判断すると良い。
- (7) 水深は10cm～30cm前後とする。
- (8) 消毒剤を入れ、残留塩素濃度が0.4mg～1.0mgに保たれるようにする。
- (9) 発熱、とびひ、手足口病、結膜炎、乾いてない傷等がある場合は入れない。(水いぼは受診してもらい医師の指示に従う。入水可能な場合は、ラッシュガードを着用し入水する)
- (10) 絆創膏がついている場合は外して入る。

2、プールに入る順序

- (1) 実施カードを確認する。プールカードに保護者からのチェックがない時や忘れた時は行わない。
- (2) 子どもの健康状態を把握し、プールに入る人数を確認する。
- (3) 排泄を済ませ、目、喉、皮膚(水いぼ、とびひ、大便の付着)などの視診を行う。
- (4) 準備体操をする。
- (5) シャワーを浴びる。※消毒層は使用しない。
- (6) 人数確認をする。
- (7) 後ろ向きで足からゆっくり水に入り、静かに沈む。
- (8) 水遊びをする。
- (9) 人数確認をする。
- (10) 整理体操をする。
- (11) シャワーで全身を洗い流す。
- (12) 体を拭く。
- (13) 着替える。
- (14) 水分補給をする。

3、準備体操

(1) 準備体操のねらい

- ①各関節を柔らかくする。
- ②すべての筋肉に刺激を与える。
- ③各部の動きを活発にする。
- ④楽しく元気な雰囲気をつくる。

□適した準備体操曲
はとぼっぽ体操・ラジオ体操
下記の体操と組み合わせて行うと良い

(2) 準備体操の順序(心臓に遠い部位から行う)

- ①手足、足首の振り ②肩の上げ下ろし ③腕の前後回し逆回し ④膝の屈伸、回転
- ⑤体の前後屈 ⑥腰回し ⑦脚伸ばし ⑧首の運動 ⑨跳躍 ⑩深呼吸

4、準備品 以下の物をプールサイドまたはプールに近い木陰に置く。

- ・AED ・嘔吐/汚物処理セット ・バケツ ・水温計 ・ティッシュ ・足ふきマット
- ・ゴミ箱 ・時計 ・救急品 ・使い捨て手袋 ・携帯電話 ・バスタオル ・玩具
- ・フェスタオル ・プール監視の手順と留意事項カード ・緊急時の手順カード
- ・プール管理票 ・筆記用具 ・WBGT(暑さ指数)測定器 ・カウンター

5、注意事項

- (1) プール活動のない時は必ず施錠する。
- (2) 必ず子どもと一緒にプールに入り行動する。
- (3) 異年齢でのプールは安全上行わない。
- (4) 必ず監視員を1人配置する。
- (5) 子どもたちには、約束を守るように話をする。
(走らない、押さない、ふざけない…など)
- (6) 10分間の活動後、一度プールから上がり、人数確認を行う。
- (7) 5分間の休憩、水分補給をとる。
- (8) 保育士の判断の下で、10分間以内の活動を再開できる。
- (9) 気候状況に応じて(盆明けなど、涼しい状況下で休憩なく活動を終了する場合)15分間の入水ができる。この場合、必ず事前に園長の許可を必要とする。
- (10) 一人一人の子どもたちが安全に楽しく遊べるような活動をする。
- (11) 突然の活動内容の変更は危険が伴うため絶対に行わない。
- (12) 水の深さには十分に注意する。浅い場合は滑りやすく転倒の恐れがあるので十分気をつける。
- (13) プール玩具は保育士の指導の下、安全に使用する。
- (14) 事故が起きた時は、直ちに大声で居合わせた職員に知らせ、適切な対応を図る。
(7. 事故時の対応と処理 付属資料2、3参照)
- (15) 家庭との連携を密にする。
- (16) プール遊びのできない子どもは保育士の見守りの中で安全に遊ぶ。

6、プール活動、水遊びの注意事項と手順

① 安全にプール活動を行うために

- ・付属資料1(消費者安全調査委員会作成チェックリストから抜粋)を使用する。
 - (1) 園長は付属資料1のチェックリスト(下段)使い、事前に指導を行う。
 - (2) 監視者は付属資料1のチェックリスト(上段)と付属資料4「プール管理表」を使い、プール活動毎にチェックする。

② プール監視の手順

- (1) 担任は人数を確認して監視者に伝える。
- (2) 監視者はチェックリストを利用しながら全体の監視に当たる。
- (3) 笛の合図で休憩を知らせる。担任は人数確認を行い、監視者に知らせる。
- (4) プール活動が再開したら(2)と同様に行う。
- (5) プール活動終了を笛の合図で知らせる。
- (6) 最後にプールや周囲の危険、プールの玩具がプール内に残っていないかなど確認する。
- (7) 活動終了後、管理表を園長又は主任へ提出する。

※脱水や熱中症など注意し、自身の体調管理に努めながら行う。

7、事故時の対応と処置

- ・ 付属資料2「プールにおける救命処置の手順」 付属資料3「緊急時の保護者連絡対応」を確認し、遵守する。

○未満児水遊びの安全管理

1、水遊びを行うに当たっての条件

- (1) 気温25℃以上が好ましい。
- (2) 気温35℃以上の場合に行わない。
- (3) WBGT(暑さ指数)31℃以上は中止とする。
- (4) 必要事項を水遊び管理表に記入する。

2、水遊びをする時の手順

- (1) 実施カードを確認する。水遊びカードに保護者からのチェックがない時や、忘れた時は行わない。
- (2) 子どもの健康状態を把握し、水遊びをする人数を確認する。
- (3) 排泄やおむつ交換を済ませ、目・喉・皮膚(水いぼ・とびひ・大便の付着)などの視診を行う。なお、大便の付着を確認するために、全員お尻拭きできれいにする。
- (4) 体をほぐす。
- (5) 人数確認をする。
- (6) 水遊びを行う。
- (7) 人数確認をする。
- (8) 体に水をかけ洗い流す。
- (9) 体を拭く。
- (10) 着替える。
- (11) 水分補給をする。 ※活動中にも必ず水分補給を行う。

3、体ほぐし

- ・ 年齢に合わせて楽しく体を動かす。

4、準備品

- ・ AED ・ 嘔吐処理セット ・ バケツ ・ 温度計 ・ ティッシュ ・ 足ふきマット
- ・ ゴミ箱 ・ 時計 ・ 救急品 ・ 使い捨て手袋 ・ 携帯電話 ・ バスタオル ・ 玩具
- ・ フェイスタオル ・ 緊急時の手順カード ・ 筆記用具 ・ 排泄処理セット
- ・ WBGT(暑さ指数)測定器

5、活動中の注意事項

- (1) 未満児は安全面と衛生面を考慮して水遊びを行う。
(水難事故の確率が高く、排泄も自立していない子どもが多い為)
- (2) 水遊びをする際は、敷き砂や土が入らないようにするなど、衛生に行えるようにする。シートを敷く際は、滑りにくい材質を選んで使用する。
- (3) シートを敷いた場合、滑りやすく転倒の恐れがあるため、十分に気を付ける。
- (4) 日よけ対策を十分に行う。子どもは帽子を被る。
- (5) 必ず子どもと一緒に水遊びを行う。子どもの人数に対して十分に見守れる保育士の人員を確保・配置した下で行う。水遊びのできない子は未満児クラス内合同で保育を行うなど、安全の保障の下で保育にあたる。
- (6) 子どもたちには約束を守るように話をする。(走らない・溜め水の中に入らない・飲

まない…など)

- (7)活動時間はおよそ20分とし、休憩や水分補給をとりながら行う。月齢に合わせて時間を調節する。
- (8)一人一人の子どもたちが安全に楽しく遊べるような活動をする。
- (9)タライなどに水を溜めた場合は落ちないように十分に気を付ける。
- (10)玩具は保育士の指導の下、安全に使用する。
- (11)事故が起きた時には、直ちに大声で居合わせた職員に知らせ、適切な対応を図る。
(7. 事故時の対応と処理)

6、水遊びの注意事項と手順

① 安全に活動を行うために

- ・附属資料1(消費者安全調査委員会作成チェックリストから抜粋)を使用する。
 - (1) 園長は附属資料1のチェックリスト(下段)使い、事前に指導を行う。
 - (2) 担任は附属資料1のチェックリスト(上段)と附属資料4「水遊び管理表」を使い、活動毎にチェックする。

② 水遊びの手順

- (1) 担任は人数を確認して副担任に伝える。
- (2) 担任はチェックリストをもとに全体の子どもの様子を掌握する。
- (3) 休憩を知らせる。担任は人数確認を行い、副担任に知らせる。
- (4) 活動が再開したら(2)と同様に行う。
- (5) 活動終了を知らせる。
- (6) 活動終了後、管理表を園長又は主任へ提出する。

※脱水や熱中症など注意し、自身の体調管理に努めながら行う。

7、事故時の対応と処置

- ・附属資料2「プールにおける救命処置の手順」を確認し、遵守する。

実施日 月 日 監視担当者:

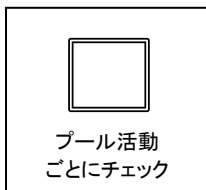
実施クラス

組

プール活動・水あそびに関するチェックリスト

付属資料 1

プールでの指導を行う職員のほかに、監視者を必ず決めてください。水の外で監視に専念する人員を配置する事ができない場合には、プール活動・水あそびを中止してください。



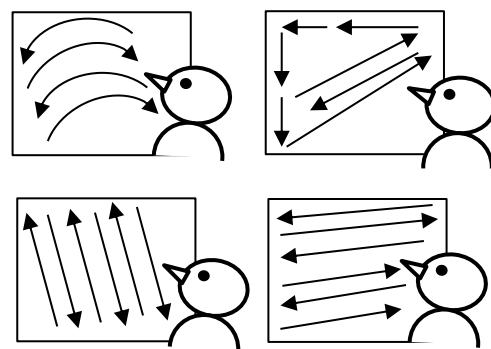
**監視者は監視に専念しなければなりません。
プール活動の指導や片づけをしてはいけません。
一瞬たりとも子どもたちから目を離さないことが大事です。**

【プール活動・水あそびの前に】

目立つ色のビブスを身に着け、周囲から誰が監視者であるか分かるようにしましょう。子どもたちに「**監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない、用を頼まない、一緒に遊んだりできないこと**」を知らせておきましょう。

あなたが監視する位置と時間を確認しましょう。
・監視エリアの全体が見えるよう、プールサイドで水の外から監視をしましょう。
・集中力を保つため、定期的に交代しながら行いましょう。
・複数名で監視をするときは、担当エリアを確認しましょう。

図1 監視の仕方



園で決めた緊急時対応の手順をあらかじめ確認しましょう。
プールサイドに、携帯電話・AEDがあることを確認しましょう。

【プール活動・水あそび中】

プール全体、子どもたち全員を監視しましょう。
規則的に視線を動かしながら監視しましょう。(図1)
・監視場所に近い所や、浅い場所など、一般に安全と思われる場所も、監視がおろそかにならないよう、注意してください。
・溺れるときには、「助けて!」「バシャバシャ」といった状況とは限らず、**実際には静かに溺れる事も多い**と言われています。動かない子どもや不自然な動きをしている子どもがいかに留意しながら監視をしましょう。
・子どもたちの表情にも注意し、声をかけたり注意を促したりしましょう。
・担任と連携し、水が苦手な子、体の動きがぎこちない子、指示が伝わりにくい子、興奮しやすい子などの子ども理解の上で監視をしましょう。
・ヒヤリハットを経験したときは、情報を園内で共有しましょう。

【園長用】※プールシーズンの初めにチェックする。

町立保育園「プールマニュアル」を確認し、マニュアルが実践的なものであるかを検証し、必要に応じて見直してください。

事故を未然に防止する為、プール活動にかかわる職員に対して、子どものプール活動・水あそびの監視を行う際に見落としがちなりリスクや注意すべきポイントについて事前教育を十分に行ってください。
・プール活動にかかわる職員に対して、子どもを対象とした心肺蘇生などの応急手当や非常時の対応について事前教育を行ってください。
・一刻を争う状況にも対応できるように119番通報を含む緊急事態への対応を整理し、マニュアルや定期的な訓練等により共有してください。園内での連絡の手順(誰が、どの順番で)を訓練してください。

監視者について次の事項をあらかじめ確認し、遵守させてください。
・監視者は、水の外、プールサイドに配置してください。
・集中力を保つため、定期的に交代して行うようにしてください。

プールにおける救命処置の手順

付属資料2

溺れた子発見！

叫んだり、笛を鳴らしたりしながら助けを求め。近くに人がいない場合は応援を求めに行く。

プールから他の子どもを速やかに出す。

遊戯室へ誘導し、職員は、園児対応Aと、連絡対応Bに分かれる。

【監視者・発見者】

プールサイドにあお向けにねかせ、反応はあるか確認する。(耳元で呼ぶ・肩をたたく)

【監視者】救急車要請

(反応の有無に関わらず119番に連絡)

【応援職員】AEDの手配

【発見者】呼吸の確認

- ・ 普段通りの息をしているか確認する。
- ・ 胸や胸部の上下の動きを見る。
- ・ ぐったりしている。
- ・ 活力がない。

応援職員
園長
応援職員

【職員A】

人数確認し、部屋に戻って着替える。

【職員B】

- ①保護者
- ②教育委員会 (0265-35-9416) の順に連絡をする。連絡後、プールへ戻る。

全クラス一箇所に集まる。(プールから離れた場所が望ましい。)
◆以上児・未満児別々に集まる。

呼吸なし

【発見者】心肺蘇生 救急車が来るまで繰り返す

人工呼吸

胸骨圧迫

2回

くり返す

30回

AED到着

【発見者】

AED

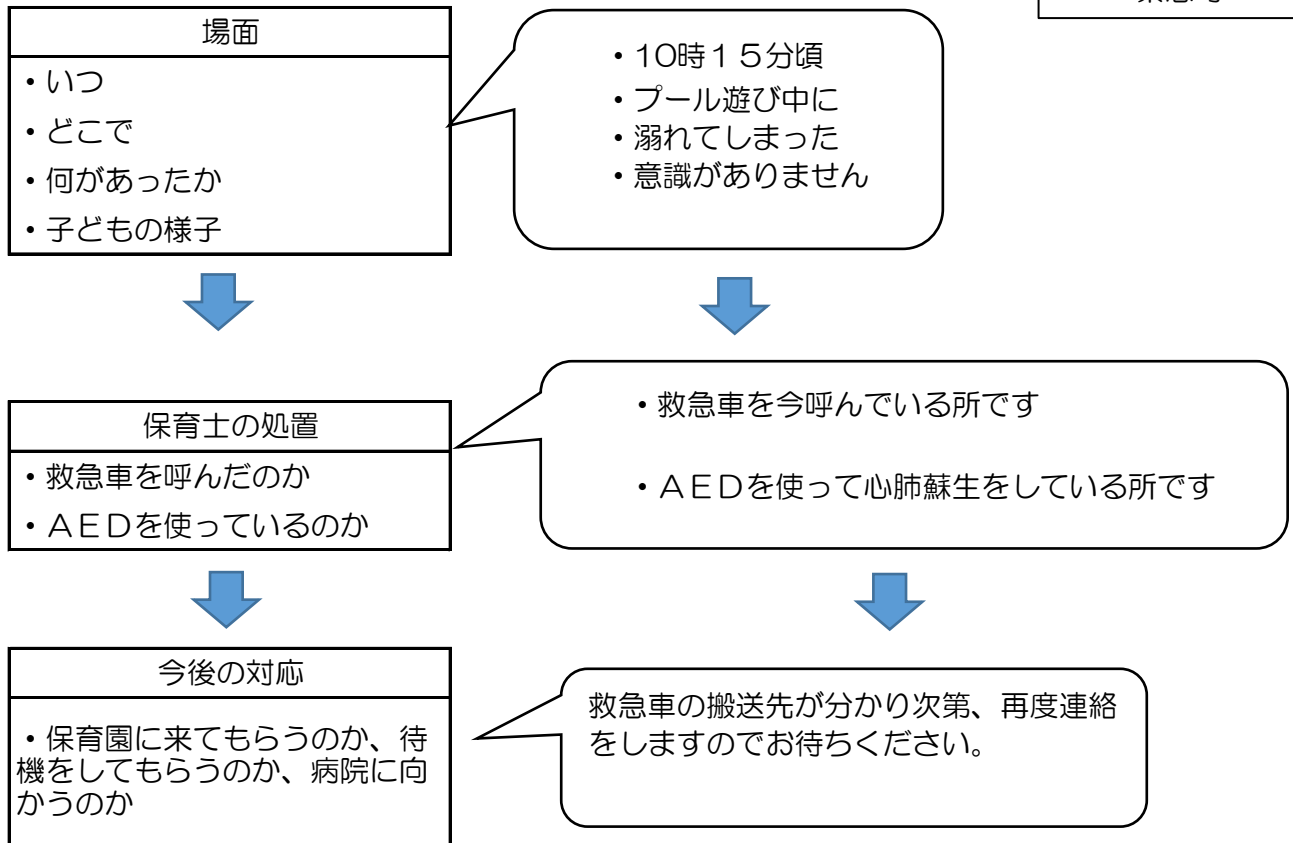
緊急時の保護者連絡対応

付属資料3

※対象園児の名前、連絡先を確認する

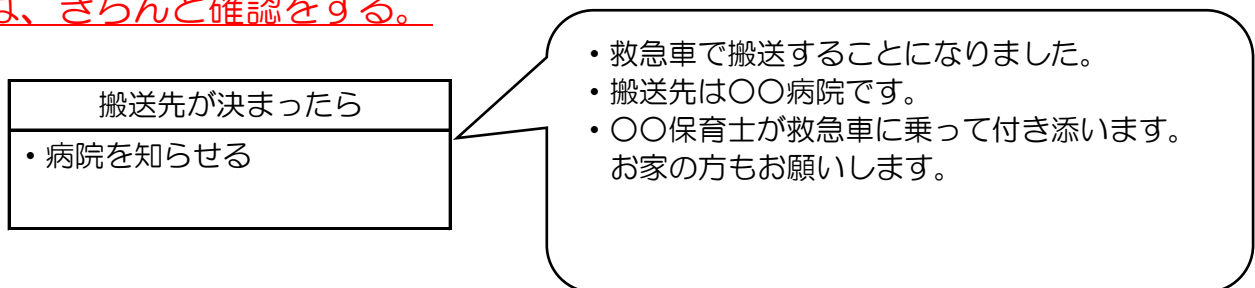
※相手が応答したら、対象園児の保護者であることを確認する

プール
園外保育等の
緊急時



※救急隊が到着し、搬送先が決まったら保護者に連絡をする。

連絡先は、きちんと確認をする。



留意点

- 保護者は、園児の事故の概況、怪我の程度を知らないなので、具体的にまた、客観的に説明するように心がける。（電話をかける前に伝える状況を整理しておく。できれば内容をメモしておく）
- こちらから「大丈夫です」「たいした事はありません」などの安易な判断を下すような言葉は使わない。
- 最後に、改めてお詫びを申し上げる。

月 日		月 日(月)		月 日(火)		月 日(水)		月 日(木)		月 日(金)		
天 気		晴 曇 雨		晴 曇 雨		晴 曇 雨		晴 曇 雨		晴 曇 雨		
WBGT(準備時)												
気 温												
水 温												
水 深(cm)												
消毒薬	時間											
	プール	分量	残留塩素	分量	残留塩素	分量	残留塩素	分量	残留塩素	分量	残留塩素	
	消毒層											
プールに入った人数・時間・監視者	もも	WBGT										
		人数	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()
		時間	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :
		(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分		
	監視者											
	すみれ	WBGT										
		人数	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()
		時間	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :
		(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分		
	監視者											
	さくら	WBGT										
		人数	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()	男 女	欠席・見学 ()
時間		: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	: ~ : : ~ :	
(入水時間) 分		(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分	(入水時間) 分			
監視者												
備 考												
記入者名												
確認者サイン												

プール遊びの条件

- ・気温25℃以上、水温22℃以上が望ましい。・気温35℃以上、水温30℃以上の場合は行わない。
- ・WBGT(暑さ指数)31℃以上は中止とする。

プール消毒薬分量について

・プール・・・20cm水深に対して10ccスプーン1, 25杯(1杯と4分の1)

残留塩素濃度について

・法令に従い、遊離残留塩素濃度が0.4mg～1.0mgに保たれるよう水質管理を行う。～感染症対策ガイドラインより～

RO年度 水遊び管理表

〇〇保育園

月 日		月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)
天 気		晴 曇 雨	晴 曇 雨	晴 曇 雨	晴 曇 雨	晴 曇 雨
気 温						
WBGT(活動前)						
水遊びをした人数・時間・保育士	つくし0	人数	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()
		時間	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :
		保育士				
	つくし1	人数	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()
		時間	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :
		保育士				
	つくし2	人数	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()	欠席・見学 ()
		時間	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :
		保育士				
備 考						
記入者名						
確認者サイン						

未満児の水遊びについて

- ・水難事故や排泄も自立していないため水遊びとする。
- ・時間はおよそ20分とし、休憩や水分補給をとりながら行う。

プール遊びの条件

- ・気温25℃以上が好ましい。・気温35℃以上場合は行わない。
- ・WBGT(暑さ指数)31℃以上は中止とする。